

# 被災地と共に闘う

―東日本大震災からの復興に向けて―

3月11日午後2時46分に発生した三陸沖を震源とする観測史上日本最大(マグニチュード9.0)の大地震とそれに伴う大津波は、東日本に未曾有の被害をもたらしました。これを受け市では、義援金や救援物資など、被災地への支援を市民の皆さんと共に実施してきました。ご協力ありがとうございました。1日も早く被災地の復興がかなうよう、市では、今後とも変わらぬ支援を続けていきます。

## 被災地に届く…市民の想い

### 義援金約7,200万円を日本赤十字社へ

義援金の受け付けは、3月14日から市内の公共施設など38か所に義援金箱を設置し実施したほか、市内の多くの個人・団体から市へ直接お持ちいただきました。本当にたくさんのかたにご協力いただき、その額は、4月15日分集計時点で、7,057万円にも上りました。

また、市内各地では、深谷市赤十字奉仕団をはじめ、ボーイスカ

ウト、ガールスカウト、ボクシング世界チャンピオンの内山高志さ



ん、吉本芸人のキャベツ確認さん、埼玉工業大学、東都医療大学の皆さんなどによる街頭募金も行われ、174万3,266円の義援金が集まりました。

(街頭募金の模様については10ページでも一部紹介しています) 皆さんからご協力いただいた義援金は、日本赤十字社を通じ、配分委員会に預けられます。その後、配分委員会から被災した各市町村へ配分され、被災者の元に届けられます。

### 田野畑・郡山・石巻。救援物資を各地へ

救援物資の受け付けは、3月18日から市民体育館で、さらに3月24日からは各総合支所でも実施しました。

市民の皆さんからは、水や食料、毛布、紙おむつ、粉ミルクなど、多くの物資をお持ちいただきました。

これらの物資は、友好都市の岩手県田野畑村をはじめ、福島県郡山市、宮城県石巻市などへ直接搬送することも、福島県からもく

せい館に避難されていたかたにも、提供させていただきました。また、市内では、企業や各種団体、自治会などの声掛けにより、被災地への救援物資の搬送が継続的に実施されています。

被災地では、日々状況が変化し必要な物資も変わります。今後の状況により、救援物資などの受け付けを再開することもありますので、引き続きご協力をお願いします。



▲3月27日田野畑村への物資を積み込む深谷高校の生徒



▲3月31日郡山市への物資を積み込む正智深谷高校の生徒

## 被災地の現状 〈友好都市 田野畑村〉

大津波で大きな被害を受けた田野畑村。4月15日現在でも、約210人が避難し、確認されている死者の数は16人、安否不明者も24人となっています。写真は、震災後約1か月たった4月4日に撮影したものです。がれきは道脇に寄せられていますが、当時のすさまじさを物語ります。



**1** 羅賀地区…手前に見えるのは、津波に流された車。元の形状を全くとどめていません。

**2** 島越地区…地域住民の足『三陸鉄道北リアス線』の高架部分は、津波にのまれ、激しく崩れてしまっています。島越地区は、人的被害が大きく、13人の死者が確認されています。

**3** 道路脇の高さ十数mもある建物には、最上部にまでがれきが到達しています。





# 市の被災地支援・災害対策

## 地震発生当日から、被災地へ職員を派遣

3月11日、県からの要請に応じ、同日中に消防職員5人とポンプ車1台を岩手県陸前高田市へ（23日まで）、交代で3隊）、3月26日から、消防職員3人と救急車1台を福島県本宮市へ（4月2日まで）、交代で2隊）派遣しました。

また、日本水道協会を通じて千葉県香取市から支援の依頼を受け、3月16日から水道部職員3人

と給水車1台を派遣（25日まで、交代で3隊）。そのほか、4月14

## 被災者の受け入れ・生活資金を援助

被災地から避難されたかたを受け入れるため、3月14日からもくせい館を避難所として開放しました。主に福島県から避難されたかたが利用され、62人が滞在してい

日から保健師および看護師3人を岩手県田野畑村へ派遣しました（21日には、交代で2人を派遣）。※活動内容などは左下図参照

ました。

もくせい館は、4月17日で避難所としては閉所しましたが、市では、避難者の今後の生活のために、市営住宅や雇用促進住宅を提供し、生活支援金の支給を行いました。

## 国が支援活動を評価

今回の震災に対し、市は「被災地域に対して、一定以上の支援を行った地方公共団体」として、国から特別交付税の特例交付を受けました。県内では9市、県北では唯一の交付団体であり、これも、市民の皆さんのご理解があったからとてす。ありがとうございます。

## 被災地への派遣

### 1消防職員

- 岩手県陸前高田市へ派遣（5人×3隊）
  - ・救済、安否不明者の捜索活動
  - ・3隊合わせて27遺体を発見
- 福島県本宮市へ派遣（3人×2隊）
  - ・傷病者の救急搬送

### 2水道部職員

- 千葉県香取市へ派遣（3人×3隊）
  - ・給水所で住民への給水活動
  - ・病院などの受水槽に給水

### 3保健師・看護師

- 岩手県田野畑村へ派遣（3人+2人）
  - ・避難所の定時巡回および患者の送迎
  - ・避難者の健康相談

# 中小企業者・農業者を支援

県内初

今回の震災により、市内中小企業では生産量の減少や消費の低迷などによる経営環境の悪化が懸念されています。

また、農業においても、風評被害などによる市場取り引きの減少や価格の低迷など、市内の野菜・花き農家や畜産農家の経営は大きく揺らいでいます。

この状況を受け、市では、中小企業者と農業者へ、経営の維持安

定に必要な運転資金について、融資を実施することとしました。この融資策の手法は、東日本震災に対応する支援策としては県内で初めてのものです。

### 【中小企業者向け融資概要】

市の審査会を通さないので短期間で融資を実行できます。また、保証料は実行後、市が全額補助します。

貸し付け限度額 ● 1,000万円

償還期間 ● 5年以内  
問い合わせ ● 商工振興課 ☎ 574-6050

### 【農業者向け融資概要】

利子分は市が補助するため、実質無利子となります。  
貸し付け限度額 ● 個人300万円、法人11,000万円  
償還期間 ● 5年以内  
問い合わせ ● 農業振興課 ☎ 574-6048

平成24年度末  
『学校の耐震化』  
100%へ

市ではこれまで、子どもたちの学びの場であり、地域防災の拠点でもある小・中学校について早急に耐震化を進めるほか、平成22年3月に「深谷市建築物耐震改修促進計画」を策定し、市内の公共・民間建築物について耐震化を推進してきました。現在使用中の市内小・中学校（校舎・体育館）は、平成24年度末までに、耐震化率100%にする予定です。

また、今回の震災では、各地で市役所庁舎などの耐震化が遅れていたことから被害が相次ぎ、業務がまひするなど、自治体の安全管理が問題となりました。

この問題に対し、市では、市内公共施設について、今年度、耐震診断を実施し、統廃合なども含め今後の方針を決定していきます。

## 公共施設の夜間利用を再開

4月11日から、公共施設の夜間利用を再開しました。当分の間は、照明や冷暖房機器の利用の制限など、節電をしながらの貸し出しとなります。ご不便をお掛けしますが、ご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

## Voice 被災者の声



## 新しい生活 に向かって

さいばら せいこ 境原 成子 さん

私は、原発から約23km離れた福島県南相馬市から来ました。屋内退避圏内となっていました。花園に住んでいる姉の勧めにより、3月15日、約12時間かけて深谷市に避難してきました。

現在（4月8日）は、79歳になる母、娘2人、孫2人に私を加えた6人で、もくせい館での避難所生活をしています。主人も一緒に避難してきましたが、仕事が4月から再開するのを受け、福島に戻りました。

不安もありましたが、深谷市の皆様にご支援を頂き、お風呂に入れて、食べられて、寝ることができるということは、非常にありがたいことだと感じています。また、精神的には、家族みんなが一緒にいられることで、パニックに陥らず安定して暮らしています。

今は、8歳と5歳の孫のことが、一番心配です。新しい地域・学校で少しでも早く落ち着いた生活をしてほしいと願っています。

今後の生活に当たっては、経済面など不安がないとは言えませんが、深谷市から生活に関するさまざまなご支援を頂き、本当に助かります。

いつまでも甘えているわけにはいきませんので、自分たちも精一杯やりたいと思っています。深谷市の皆様には、温かく迎え入れていただければうれしいです。